

### 第三回児童発達支援センター主催研修会を開催しました

令和7年7月4日（金）15：30～17：00、泉佐野市立社会福祉センター2階大会議室にて、第三回児童発達支援センター主催研修会を開催しました。市内の小中学校、障害児通所支援事業所、障害児相談支援事業所、幼稚園、こども園など、49名の参加がありました。

講師には、京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構 総合教育臨床センター学びサポート室 講師の榊原久直先生をお招きし、『保護者との協働のための相談支援の工夫～愛着関係とメンタライゼーションの視点から～』を演題にご登壇いただきました。

研修は、“支援者が一生懸命に支援をしても、保護者の状況によってはその支援を受け入れにくい場合があることをまず理解しましょう”“保護者の状況を理解するために必要な考え方や専門的な知識に触れてみましょう”という導入から始まりました。保護者の状況や心の中の状態を理解していくうえで、まずは支援者自身の心の中の自分の感情を意識していくことが、保護者との適切な関係を築く上での第一歩になることを教えていただきました。大変わかりやすく温かい視点でのお話に、会場全体が自然と和やかな雰囲気になっていきました。講演を聞かせていただくだけでなく参加者同士が自分の支援を振り返ったり、支援者役・保護者役でのロールプレイをしたりしながら、保護者との相談の場において、大切にしなければならないこと、知っておかなければならないこと、具体的な面談の手法などについて体験的に学習することができました。

また、『安心感の輪』のお話では、「アタッチメント(愛着)は、こどもだけに必要なものではなく、保護者にとっても支援者にとっても必要なもので、障害や特性にかかわらず、誰でも一生必要なものである」というお話がありました。保護者・こども・支援者にとって、いつでもエネルギーを補充できる安心基地があることを意識した支援の大切さについて学ぶことができました。参加された方は、『自分が支援者として保護者やこどもたちにとっての安心基地に』ということ意識されたのではないかと思います。

